

やってみるといふこと

— 一畝農場のその後 —

な かの

農作業の機械化をしようではないかと提案すると、いや機械はだめだ、準備だ、故障だといつている内に手で片附けた方が早いといつて反対する。そして過去に機械で失敗したり、困つたりしたことを盛に持出す。

この人は機械が日々に進歩していることを知らない。又機械を正しく扱おうとする知識も足りない、如何にすれば機械を能率的に使うかを研究しようとする意欲も少ない。だから何時までたつても手で非能率的な仕事をして忙しいといつている。しかし一度機械を入れて上手に扱つて見せ、どんな仕事がかどるのを見、体験するともう先についてたことなど忘れ去つて機械でなくては仕事が出来ないようなことを言い出す。

機械化については富農形態や立地条件、あるいは経費等の問題も関連してくるから、なかなか簡単には論じられないとは思ふが、農業界にはこうした物の考え方がいたるところで見られる。種子は一度まいてしまえばそれつきり秋にならなければ一般のものは収穫が出来ず、その時にならないければ結果がわからない。従つて新しい品種が出来ても仲々用心深く、やつて見ようという気が起らない。心の中では現在よりも採算が合わなかつたのであろう。しかし

ら手の方が出ない。物好きや不用心はいけないが、世の中の進歩に応じて新しいものもとり入れて見よう、研究もして見ようという意欲が欲しいものである。飼料作物について見ても、仲々種類が多く、且つそれ等の性格も種々雑多であり、自分の土地で果してうまく活用出来るかどうかは疑問の場合も少なくない。しかし大体それ等の性質から判断して自分の土地で利用出来るかどうかという見当はつけることが出来る。そこで試作をして見るのが次の段階である。一坪でも半坪でもよい。正しい管理のもとに試作して見るのだ。論議するより「やつてみる」ことではなからうか。

愛知県東春井郡篠岡村に塚本敏三氏の経営する一畝農場がある。この農場のことについては八号でも報告したが、松の木だけがポツポツ生えているガラガラの瘠地、しかも波状丘陵地で雨でも降らねば水気などなさそうな土地を六町歩切り拓いて酪農経営を始めたのである。今年の開拓八年目、開拓資金の条件は良かったようではあるが、隣接した不毛に近い丘陵地と今は牧草が青々と繁茂する圃場と見くらべるとそこに長い間の苦心と苦勞の跡が偲ばれる。この地帯は果樹園地帯で桃の産地であるが、このような土壌条件から一般の作物はとて

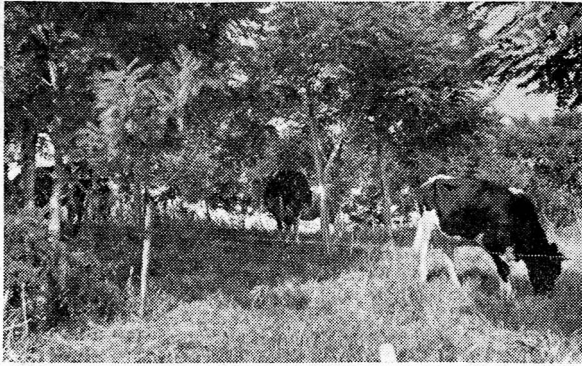
塚本さんは見事に酪農経営の基礎をつくりあげた。塚本さんが慎重な計画と新しい農法を思い切つてとり入れた努力の結晶である。塚本さんは一つ一つ良いと思うこと、良いといわれることをやつて見た。そして今や理想の彼岸に近いところまで漕ぎつけたのである。

ポブラ、トゲナシアカシヤ、イタチハギ等に囲まれた一畝農場に入ると、母屋、ハーフトラック及びジープの車庫、ボイラー室と製酪所、豚舎、牛舎そしてサイロ（八尺×一八尺）、二基が見事に建ち並んでいるのが目に入る。水は電動ポンプにより各所に配管され水道となり、ボイラーは自動式重油燃焼装置で加温、飼料の煮沸、牛乳の加温、風呂にまで湯湯がめぐつている。牛舎には成牛六頭、豚は大四、小六、仔豚一二、鶏やアヒルが庭を三〇羽ばかりとび歩いている。母屋の前には五、六年生のトゲナシアカシヤが緑の影をおとし、その下のブROOMグラスの放牧地にはホルスタインがのどかに草を喰んでいる。波状の丘陵にまたがっている圃場には、エンシレーシ用のデントコーンが五反歩見上げるほどに育ち、続いてルーサン（ブROOMグラス混播）年目が二・五反、スーダングラス（大葉つるまめ混播、刈取中）が一反、次ぎは桃畠で握拳大の水蜜桃が枝もたわわになり下り、その下からラデノクロパーが四反緑の畳を敷きつめている。さらに丘の頂きには赤クロパー（チモシー混播）が二・五反、

牧草と園藝 十月号 目次

| | |
|---|------------|
| ◆表紙写真 秋陽の映える下で二番刈牧草の収納 (雪印種苗・上野幌育種場にて) | 雪印・千葉農場……二 |
| ◇冬枯れしない青刈燕麦岡山黒について…… | な かの……三 |
| ◇やつてみるといふこと——一畝農場のその後…… | 白 金 茂……五 |
| ◇道南の果樹…… | 川村英五郎……七 |
| ◇りんごの黒星病…… | 中野 富雄……二 |
| ◇トレンチサイロの造り方とその利用…… | 岸 村 茂雄……四 |
| ◇飼料作物の研究機関めぐり…… | 元 ……元 |
| ◇「垣」の話…… | |
| ◆飼料作物種子価格表…… | |

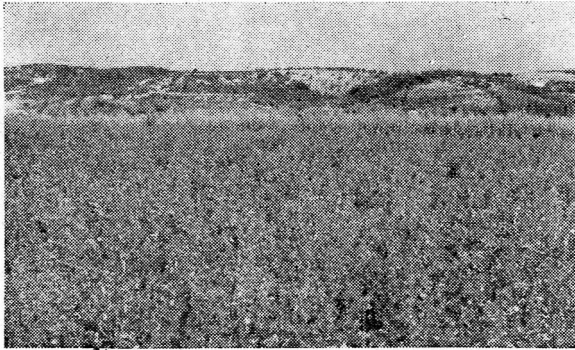
の飼料畑からは年中ありあまる程の飼料が生産され、現在の家畜頭数を倍化しなればならぬという現況である。いずれの作物も折柄の早魃にもかかわらず見事な生育振りで、ルーサン、赤クロパー、チモシー、オーチャードは既に二番草が二尺近くに伸びており、ソルゴーは五・六尺、スーダングラスは五尺ぐらいたつていた。よくこの瘠地にこれだけの生育を見せたものと感嘆させられる。これは塚本氏の飼料作物の選定がよかつたからである。そしてまたこ



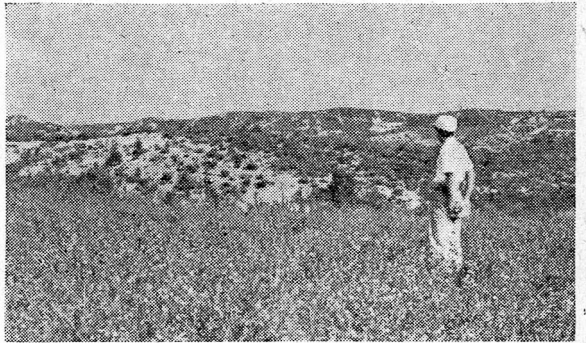
ブroomグラスの放牧地、周囲はトゲナシアカシヤ



ソルゴー、人物は塚本氏後方はデントコーン



見事なルーサンの圃場



赤クロバー、チモシー混播圃(背景の禿山を御注意下さい)

れ等のこの地方にとつては全く新しい飼料作物を勇敢にしかも試作を重ねるといふ、慎重さのもとにとり入れた結果に外ならない。同氏の飼料設計は現在の段階ではまだ無駄が多いが、これらの作物がこれだけの生育をなし、それが乳牛の生産力にどれだけプラスになるかが分つたことは一大収穫である。あとは綿密な飼料設計が出来ればもうしめたものである。別表はこの農場の飼料作物の作付、收穫表であるが、播種期の幅が広い作物が多いのであるし、またそれぞれの反収も給与量も見当がついたのであるから、明年以後は、播種時期、作付面積をさらに適切にし、またこの土地面積に必ずや家畜頭数をそろえてゆけば特に完璧なものとなるであらう。

最初にも述べたように、同氏の開拓以来の営農は資金的にややめぐまど、この地帯にかかる飼料作物を入れ成功への第一段階を完全に切り切つたことを、読者はそれぞれ自己の経営内容と比較して参考とすべきではなからうか。世の中は日進月歩、人智は未開の世界を絶えず新しい方向へ切り拓いてゆく。古いものの中にもすぐれたもの

一 鐵農場 飼料作物作付表

| 作物名 | 月 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 |
|--------------|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|-----|--------|
| トールオートグラス | | 0 | | | | | | | | | | | |
| パーズフットトレフォイル | | 0 | | | | | | | | | | | |
| ラデノクロバー | | 0 | | | | | | | | | | | |
| 青刈大豆 | | | 0 | | | | x-x | | | | | | |
| ポシキ | | | 0 | | | | x-x | | | | | | |
| デントコーン(青刈) | | | 0 | 0 | | | x-x | | | | | | |
| ク(エンシレージ) | | | | 0 | | | | x | | | | | |
| 大葉つるまめ | | | 0 | | | | x | | | | | | |
| スーダングラス | | | 0 | | | | x-x | | | | | | |
| ソルゴー | | | 0 | | | | x-x | | | | | | |
| アフリカンミレット | | | | 0 | | | x-x | | | | | | |
| 青刈大豆 | | | | 0 | | | | x-x | | | | | |
| カウピー(エンシレージ) | | | | 0 | | | | x-x | | | | | |
| ケール | | | | 0 | | | | | x-x | | | | |
| ラデノクロバー | | | x-x | x-x | x-x | | | 0 | | | | | (翌年利用) |
| ルサシ | | | x-x | x-x | x-x | | | 0 | | | | | (同上) |
| 赤クロバー | | | x-x | x-x | x-x | x-x | 0 | | | | | | (同上) |
| 馬鈴薯 | | 0 | | | | | | | | | | | |
| クリムソクローバー | | x-x | x-x | | | | | 0 | | | | | (翌年利用) |
| レプ | | x-x | | | | | 0 | | | | | | |
| 甘藷 | | | | | | | | | | | | | |
| かぶ | | | | | | | | 0 | | | | x-x | |

注 0 播種期 x-x 收穫期

(雪印種苗・上野幌育種場)

は勿論ある。しかし新しいものの中にはさしにすぐれたものがあることを知り、それを早速自己菜園の中のものとしてほしい。たまたま一鐵農場を訪ね、塚本氏と親しく語り、その将来を祝福した喜びをここに御紹介をした。写真は七月一九日盛夏、連日の早天に困っている時のものである。よく繁茂している牧草と、背景の禿山がこの牧草地の八年前の姿であつたことを御覧下さい。